

県内では桜便りがにぎやかとなってきました
が、会員の皆様いかがお過ごしですか？

大寒を過ぎたあたりから急激に冷え込み、インフルエンザの発生動向にも目が離せません。年度末に向けての何かと慌しい時期となりますが、旧正月も終わりもう一度気持ちを引き締めて新年のスタートとしましょう。

さて、皆様にクイズです！「5,325人」これは一体、何の数字でしょう？

平成23年12月11日の沖縄タイムス紙面(9面)からの引用ですが、10万人あたりのマラソン大会出場者(2010年度)沖縄県参加者数です。何と全国1位の水準となっているんです。国内で5,000人以上が参加する大型マラソン大会は146もあり(県内は6)、全国平均が1,000人余、河口湖マラソンで有名な山梨県が僅差の2位、3位の茨城県が3,000人となっています。2月19日には沖縄マラソンが予定されています。会員の皆様の中にも参加を予定されている方がいらっしゃると思います。日頃の練習の集大成として・健康増進のため・職場の懇親を深めるためにと思いは様々かもしれませんが、ご健闘をお祈りします！くれぐれも無理せず、楽しんで下さい。メタボ日本一の沖縄県民、頑張ってますよ(笑)

会員の皆様には、マラソン参加の体験談やジョギング同好会など楽しいエピソードの投稿もお待ちしております。

スポーツつながりでいえば、2月1日からプロ野球の沖縄キャンプが始まります。日本・韓国計15球団が沖縄全域に集結します。診療の息抜きにキャンプ地めぐりが計画できるのも沖縄の特権ですね。冬場でもゴルフが楽しめますし、観光とリンクしたスポーツ産業は沖縄のもつ可能性を広げてくれると期待します。と同時に、生活習慣病の予防意識・救命救急初期対応・自動対外式除細動器(AED)の使い方など県民への啓蒙活動に大きなモチベーションとなるのではないのでしょうか。そのためにも日頃から私達も研修を継続しなくてはなりません。平成23年度沖縄県医師会勤務医部会講演会～みんなのシミュレーションセンターはこうなる！～を読み進めるとワクワクしてきます。スローガンは「目指せ日本一、アジア一」～人材を生み出すパワースポットにしたいものです。

さらに期待することとして、沖縄が「スポーツ医学」のメッカになる！というのはどうでしょう。スポーツのあらゆる分野で県出身者の活

躍が報じられています。バスケット・ハンドボール・サッカー・ゴルフ等プロ競技の動向が、県民の日常会話の話題となるのも沖縄らしさを感じます。さらに温暖な気候・風土がもたらすホスピタリティも沖縄の強みとなるでしょう。そこで、競技スポーツ選手の治療や故障の予防を総合的に提供できる専門医学の土台作りを検討してみてもどうでしょう。県医学会の分科会に「スポーツ医学」が将来設立されるかもしれませんね。長寿県の標榜が少し怪しくなってきましたから、「スポーツアイランド沖縄」を旗揚げして、医療ツーリズムの可能性も模索しながら、視点を変えた日常診療のスキルアップを議論するのも面白い発想が期待できそうです。

私のよもや話はもう少し続きます。

2月といえば受験シーズン。2月11～13日は医師、2月19日は看護師国家試験です。

受験の話をしたわけではありません。沖縄の医療界に多大な貢献を続けてきた沖縄県立浦添看護学校が平成24年3月末日をもって閉校します。昭和52年の開校以来35年の歴史に幕を閉じます。新しい医師会館ができるまでは、医師会事務局は同看護学校と建物を共有し、県医師会医学会総会も看護学校の教室を会場に熱い議論が展開されたのを懐かしく思い出します。ここ数年、国家試験合格率も100%を維持していると聞いています。会員の皆様の中には、忙しい診療の合間に教壇に立たれたご経験のある方も多いと思います。看護教育に真摯に取り組み実績を上げられた教職員の皆様、本当にお疲れ様でした。心から感謝申し上げます。

さて最後に、2月号で私が注目した記事に触れたいと思います。

それは第53回地区医師会連絡協議会の報告です。特に「在宅医療の現況について」は検討課題がまだまだ数多く積み残されている現場の苦悩が感じられます。私の勤めている病院はうるま市にありますが、市内に訪問診療を手がけている診療所はありません。中部地区医師会管内に在宅医療を実践している医師が19名おられ、うるま市の広範な地域もサポートしていただいているのが現状です。今月号ではトピックスに代表される様々な問題が提起されています。まずは会員の皆様の身近なところから議論を始めていただきたいと思います。きっと会報の情報が役立つと思いますよ。ご活用下さい。

広報委員 金城 正高